



飯能西中だより

天覧山

8月号

飯能市立飯能西中学校
学 校 だ よ り
令和4年度 第5号
令和4年8月25日発行

＜校訓＞ 誠・和・進 ＜学校教育目標＞ 自立 共生

＜目指す学校像＞ 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

一人ひとりが大切にされていることが実感でき家に帰った時に元気よくたいていと言える学校でありたい

飯能西中学校スクールアイデンティティー

不戦の誓いを引き継ぐこと

校長 中村 公一

平年よりも早く梅雨が明け、今年の猛暑日の日数は過去最多を記録しています。そのうえ新型コロナウイルスの第7波の影響もありゆっくりと体を休めることができない夏休みとなっていました。今日から2学期が始まるわけですが、まだまだ厳しい暑さが予想されることから、新型コロナウイルスへの感染予防と熱中症対策の両方に十分配慮していきたいと考えております。2学期は体育祭や合唱コンクールなど全校を挙げて行う行事が予定されておりその準備も着々と進んでいます。この夏の猛暑がいつまで続くのか、また新型コロナウイルスの影響がどこまで広がっていくのか、この先の様子がなかなか見通せません。今後の状況によっては保護者の皆様に様々なお願いすることもあるかと思ひます。その折には何卒よろしくご理解とご協力をくださいますようお願い申し上げます。

さて、今月の8月15日は77回目の終戦の日でした。この日は6月23日の沖縄終戦の日や、8月6日、8月9日の原爆の日と併せて、決して忘れてはならない日だと私は思っています。

「あのね、終戦の日というところどこか人ごとのように聞こえてならない。この日はね戦争を始めると散々な目に遭うということを、私たち日本人が忘れないためにある祈念日なんだよ。」

これは、私が高校1年生のときに病気で入院した数学の先生の代わりに私たちの授業を一ヶ月ほど受け持ってくれた先生の言葉です。その先生はもう70歳に近いかなり年配の方でしたが、他の人が見つかるまでの期間でいいからと頼まれたのでしょうがなく引き受けたということでした。後でわかったことなのですが、実はこの先生、私の父が中学生だったときその中学校の校長先生をされていたそうです。

夏休み前になり、その先生の授業が最後となったある日のことです。先生はボツリと上のようなことを話し始めたのです。私たちはその先生が大太平洋戦争中に大変な経験をされていたことをこの時初めて知りました。先生は陸軍の小隊長として部下を引き連れて南洋の戦地に向かう途中、乗っていた輸送船が米潜水艦の魚雷攻撃によって沈められてしまったのですが、そこで九死に一生を得たのだそうです。

「ドーンと魚形水雷が当たるのと同時に一気に水が噴き出してきて、もうみんな必死で出口に向かって這い上がろうとする。われ先に人の頭を踏みつけていくものだからもう部下も上官もあつたもんじゃない。私も必死だった。もう地獄っていうのかね。」

・・・私のせいで誰かが死んだのかもしれないと、考えたくは無いがどうしても考えてしまうことがあつたよ。まあ、おかげで戦地で敵と直接戦うことはなかったわけだが、本当に戦争というものは人を変えてしまうものなんだ。こういうことは私のように戦争を経験した人は絶対に忘れやしない。でも、戦争を経験していない人にはそれがわからないんだ。わかるわけがないんだ。それはしょうがない。でも、だからこそ戦争をすると散々な目に遭うということを知らなきゃいけないし、忘れないようにすることが必要なんじゃないかな。それが8月15日というわけだ。私はそう思う。」

平和への誓い

あなたにとって、大切な人は誰ですか。

家族、友達、先生。

私たちには大切な人がたくさんいます

・・・

自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すことそれは、強さとは言えません。

本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとするということです。本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです。

・・・

令和4年 広島平和記念式典

「平和への誓い」から

語り始めた先生の一言一言が心に沁み、やがて教室中の全員が先生の次の言葉を待つようになりました。静まりかえった教室の外で蟬の鳴き声だけが響いていたのを今でもよく覚えています。

先生はこうもおっしゃいました。「人間は戦争したことを永遠に反省していきやいけないんだと思う。でもやがてみんなが社会に出る頃、私たちのように戦争で散々な思いをした人が旅立ってしまうと、戦争したことをいつまで反省しなきゃいけないんだって言う人も出てくるんじゃないかと思う。中には自分達を守るための戦争だったら、ちょっとぐらいやってもいいんじゃないかって人だって出てくるかもしれない。もう十分反省したから「戦争をしちゃいけない国」をやめて、場合によっては「戦争をしてもいい国」にしようっていうことになってしまったら次はどうなるんだろう？きっとその次は戦争しても負けない国にしようといろんな兵器を開発するんだろうね。科学技術の発展とかと合わせて。そのようにして戦争しても負けないという自信がついたら今度は戦争というものが平気になってしまう。何年もかかってそうやって少しずつ変化していくと誰にも止められなくなってしまうということ、戦争を経験した私たちは知っているんだ。だから、戦争をすると散々な目に遭うということを決して忘れてはいけないと思うんだよね。」遠い記憶をたどりながらなので不確かな部分もありますが、先生はだいたいこのようなことを、年の離れた若い私たちにわかりやすく、そして真剣にお話ししてくださいました。

40年も前の話なのですが今の日本に、そしてウクライナの問題にも当てはまっているような気がしてなりません。戦争を経験していない私たちが、次の世代にどのように不戦の誓いを伝えていくのかという大きな課題がそこにはあります。77年前、熊谷市では終戦当日の空襲で多くの人が亡くなりましたし、その前々日には関東よりもずっと内陸にある長野でも空襲があり多くの方が亡くなっています。「国益を守るため」「国民を守るため」という理由で戦争を始めたものの、最終的には国益どころか国民を守ることもできなかったという事実と向き合わなければなりません。

8月6日に広島で行われた平和記念式典では、今年も小学生が「平和への誓い」を読み上げました。毎年、子供たちが読み上げる誓いの言葉はどの大人の言葉よりも私たちの心に響いてくるように感じます。コラム欄に紹介したのは今年の「平和への誓い」の一部ですが、スピーチが始まって1分30秒ほどたったときに読み上げられた部分です。「本当の強さがあれば喧嘩は起こらない」本当の強さとは何か、子どもたちはきっと普段から先生にそのように教わっているのでしょう。そしてそのことを素直に受け入れているのだと思います。私たち大人は、社会の中で生きていく術として本音と建前を使い分けるのが上手になる一方で、社会の理想を目指すことを諦め、あまつさえそれを語ることもなくなっているのではないのでしょうか。けれども不戦の誓いを引き継ぐことは私たち一人一人が担うべき責務です。そういった意味でも私たち教員は子供たちに理想を語り自ら理想を目指す大人でありたいと思うのです。

2学期に開催予定の学校行事について

最初にお話ししましたように今のところ学校では体育祭や合唱祭の実施に向けて準備を進めていますが、今後新型コロナウイルス感染症の第7波の影響により行動制限などが出された場合には何らかの措置をとらなければならないことも予想されます。生徒を第一に考え安易に中止にすることがないようにしていきたいと考えていますが、感染対策や熱中症対策のために保護者の皆様にもご協力をお願いすることがあるかと思います。その折にはどうかよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス対策は新しい局面を迎えました

生徒の皆さんへ

新学期を迎えるに当たり皆さんにお願いがあります。これまでとは違い小中学生の感染者が急激に増えています。すでに日本全国で感染した人は1500万人と報告されていますから、単純に感染率だけで考えると各クラスに4～5名の感染者がいることになります。以前お話ししたようにエアロゾル感染を防ぐためにも教室での感染対策、特に換気にはこれまで以上に気を遣ってほしいと思います。感染対策も熱中症対策も自分で根拠をよく考え合理的に判断できる人になってほしいと思います。

○ 8・9月の主な行事予定 ○

8月	9月
25日(木) 2学期始業式	2日(金) 3年生 4市テスト
26日(金) 給食開始・自転車点検	3日(土) 漢字検定(申込者のみ)
30日(火) とうのす学級宿泊学習(1日目)	7日(水) 体育祭予行
31日(水) とうのす学級宿泊学習(2日目)	10日(土) 体育祭
	12日(月) 振替休日